



ハワイ語と日本語における主食と副食の語彙的区分について

その他（別言語等）のタイトル	Lexical Distinction between the Staple Food and the Other Food in Hawaiian and Japanese
著者	塩谷 亨
雑誌名	認知科学研究
巻	3
ページ	37-50
発行年	2004-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10258/238

ハワイ語と日本語における主食と副食の語彙的区分について

その他（別言語等）のタイトル	Lexical Distinction between the Staple Food and the Other Food in Hawaiian and Japanese
著者	塩谷 亨
雑誌名	認知科学研究
巻	3
ページ	37-50
発行年	2004-04-30
URL	http://hdl.handle.net/10258/238

ハワイ語と日本語における 主食と副食の語彙的区分について*

塩谷亨

Lexical Distinction between the Staple Food and the Other Food in Hawaiian and Japanese

Toru SHIONOYA

要旨 : A traditional Hawaiian meal, as well as a typical Japanese meal, consists of the staple food and the food other than the staple food. Both Hawaiian and Japanese distinguish them lexically. Many other languages, such as English, do not have a clear lexical distinction between the staple food and the food other than the staple food. The word for the staple food is *gohan* in Japanese and *'ai* in Hawaiian, respectively. Those two words are similar in that they can also mean the whole meal including the staple food and the food other than the staple food. The word for the food other than the staple food is *okazu* in Japanese and *i'a* in Hawaiian, respectively. Both in Japan and in Hawaii, many kinds of food, such as fish, meat, and vegetables, are eaten together with the staple food. Both *okazu* and *i'a* denote any food eaten together with the staple food, whether it is fish, meat or a vegetable.

キーワード : Hawaiian, Vocabulary, Food

1. イントロダクション

1.1. 「ごはん」と「おかず」という区別

日本語においては、食事を構成する食べ物は「ごはん」と「おかず」の二つに大きく分類される。「ごはん」が主食であり典型的には米を炊いたものである¹。一方、「おかず」は主食である「ごはん」と一緒に食べる副食であり、肉や魚や野菜などいろいろなものが「おかず」として食される。

最近外国の影響で日本の食文化も多様化しリゾットやチャーハン等のように「ごはん」と「おかず」という二分法がうまく適用できない食事も増えてきた。また、伝統的な日本食でも、鰻丼を代表とする丼もの、天ぷらそばを代表とする麺もの、さらには今や世界的にも日本食の代名詞となった寿司のように、「ごはん」と「おかず」の二分法がうまく適用できない例が存在することも事実である。しかしながら、典型的な日本の

食事の二つの必須要素として「ごはん」と「おかず」を挙げることに對し、真っ向から異議を唱える人はいないであろう。上述したような様々な逸脱例の存在を認めた上でも、典型的な日本の食事はと言えば、やはり、茶碗に入った「ごはん」と皿などに入った「おかず」が別々に出されるスタイルの食事なのである。

ここで、汁物をどうあつかうべきか、「おかず」に入れるべきなのかそれとも別扱いにすべきなのか、議論の余地があるところだが、今回は「ごはん」と「おかず」に的を絞り、汁物の扱いについては別の機会に譲ることにする。

1.2. 日本語以外における「ごはん」と「おかず」

日本語の「ごはん」と「おかず」という二分法にうまく対応するものは英語にはないとされている。例えば、研究社新英和・和英中辞典によれば、「アメリカではふつう主食 (staple food) はパン、主菜 (main dish) は肉でそれ以外の料理は side dishes; それを合わせた「おかず」に当たる英語はない」となっている。もし「パン」が主食であるとする、日本語の「ごはん」に当たるものは英語では「パン」 (bread) だと考えることも出来るかもしれない。実際、日本語の「ごはん」と英語の「パン」 (bread) にはいくつか類似点もある。しかしながら、「おかず」という概念がない以上、日本語の「ごはん」と「おかず」の様に、食事の構成要素を主食と副食に区分する二分法は存在しないことになる。

英語と同じくゲルマン系の言語であるドイツ語について、三省堂コンサイス和独辞典で「おかず」をひいたところ、意外にも、Beilage と Zukost という二つの単語が挙がっていたが、実際には、これらの単語は肉料理などの付け合せとして皿に盛られる茹でたにんじん等の野菜のことを指すのに使われる単語で、日本語の「おかず」と対応するものではないと思われる。

日本の食事は典型的には、まず主食である米を炊いたもの「ごはん」が毎日の食事の中心であり、それと一緒に食べる副食「おかず」として肉や魚や野菜などいろいろなものが出される。従って、中心的要素である「ごはん」と、付随的要素である「おかず」とを語彙的に区別し別扱いすることには意義があると思われる。一方、アメリカやドイツでは食事の中心はむしろ肉や魚など副食にあたるものであり、主食とされるパン等はその添え物程度の扱いであり、食べないことすらある。そのような国々ではでは主食と言う概念自体がそれ程意義あるものとは言えないかもしれない。

では、日本語の「ごはん」と「おかず」のように主食と副食を明確に分ける二分法は日本のような米食文化特有のものなのであろうか。世界中には米を炊いたもの以外にも、いろいろな食物を主食とする人々がいる。例えば、とうもろこしを主食とするメキシコ料理などは日本でもすっかりお馴染みである。そのような人々の言語では、主食である「ごはん」的なもの（もちろんいわゆる「ごはん＝炊いた米」ではなくその人たちの特有の主食）とそれと一緒に食する副食「おかず」に関して、日本語の「ごはん」と「おかず」のように語彙的な分類分けはなされているのであろうか。

本稿で取り上げるのは、そのような米以外を主食とする例の一つであるハワイの食文

化である。

1.3. ハワイの伝統的な食事とその語彙上の区分

ハワイの食事は日本の典型的な食事と良く似ている。日本の典型的な主食食材は米などの穀類であり、最も代表的な主食は炊いた米である。ハワイの主食はタロイモ等のイモ類やパンの実などであり、主食の中でも最も代表的なものはタロイモ等を蒸して、それをつぶしてペースト状にしたポイ (poi) という食べ物である。

ポイは毎日の食事の中心をなすもので、日本における炊いた米 (=狭い意味での「ごはん」) と同様の地位にある。典型的な日本の食事では炊いた米には味付けはなされないが、ハワイのポイも同様である。Mitchell (1992:140)によれば伝統的なハワイの食事では決してポイには味付けはなされなかったと言う。今日でも味付けをしていないポイが正統と考えられているようである。ポイは時間がたつと発酵が進んで酸味を帯びてくるが、これも明確な味付けとは言えないであろう。

一方の副食の食材としては、肉、魚、野菜など様々なものがあるのは日本もハワイも同様である。特に、海産物に関しては、魚だけではなく、ナマコやウニや海藻などいろいろなものを食べるという点でも日本とハワイはよく似ている。白人が来る前はハワイには野菜の種類は少なかったが、野菜と呼べるものの代表としてタロイモの茎や葉があげられる。

食べ方にも共通点がある。日本では調理して食べる他に、生でつまり刺身で食べることもある。実は、ハワイにも魚の刺身を食べる習慣がある。味付けについては、日本では塩、砂糖、醤油などいろいろな調味料で味付けがなされる。ハワイの味付けはどうか。そもそもハワイに調味料などあったのかと疑問に思う人もいるかもしれないが、伝統的なハワイの食事においても、立派に調味料は存在した。その代表的なものは塩である。昔からハワイは日本と同じく塩田による製塩技術を持っていたのである。例えば、ハワイの代表的な料理である「豚の蒸し焼き」は、肉に塩を十分すり込んでから蒸し焼きにするもので、出来上がったものには、十分な塩味が付いていて、「おかず」としては最適の食べ物である。

それ自体にはっきりした味がない主食は、しっかりした味付けをなされた副食と共に食べることでおいしく、そして、たくさん食べることができるということは、誰しも経験的に知っていることである。日本の食事も、ハワイの伝統的な食事も、どちらもこれを実践しているものである。

以上述べてきたことのまとめとして、下に典型的な日本の食事と伝統的なハワイの食事の対照表を提示する。

	典型的な主食	典型的な副食
典型的な日本の食事	食材：米などの穀類 代表的な食べ方：炊飯 味付け：なし	食材：肉、魚、野菜など 代表的な食べ方：生のまま、 または調理したもの 味付け：あり
伝統的なハワイの食事	食材：タロイモなどイモ類 又はパンの実 代表的な食べ方：ポイ（蒸 したイモなどをつぶしてペ ースト状にしたもの） 味付け：なし	食材：肉、魚、野菜など 代表的な食べ方：調理した もの、魚は生もあり 味付け：あり（塩が代表的）

このように、ハワイの伝統的な食事も、日本の典型的な食事と同様に、主食と副食という二つの要素に明確に二分することができる。では、日本語の主食の「ごはん」と副食の「おかず」に対応するような語彙的な区別がハワイ語にもあるのだろうか。

ハワイ語では、イモ類などの主食は‘ai、それと一緒に食される肉や魚や野菜などの副食はi‘aと呼ばれる。このことから、日本語における「ごはん」と「おかず」という分類には、ハワイ語では‘ai と i‘a というペアが対応すると思われる。両者の関係を表にすると次のようになる。

	日本語	ハワイ語
主食	ごはん	‘ai
副食	おかず	i‘a

本稿ではハワイ語の‘ai と i‘a の区別を日本語の「ごはん」と「おかず」の区別と対照しながら、その本質的な意味を探る。

2. ハワイ語における「ご飯」と「おかず」

2.1. 辞書の定義に見る‘ai と i‘a という分類

ハワイ語の語彙には意味的な同音異義語や文法的同音異義語が比較的多く含まれている。本稿で扱う二つの単語‘ai と i‘a もその例に漏れず、Pukui and Elbert (1986)の辞書を見るといくつもの語義がならんでいる。実際、主食を表すのにも使われる単語‘ai の最も頻繁に目にする用法は「食べる」という意味の動詞としての用法であり、一方、副食を表すのにも使われる i‘a の最も代表的な意味は「おかず」ではなくむしろ「魚」である。

この節では、ハワイ語辞書に見られる多様な語義のうち日本語の「ごはん」と「おかず」の区別に対応すると思われる項目の定義について吟味する。普通であれば、主食の‘ai

をまず吟味し、次に副食の *i'a* へと移行するのが自然な順番であるかもしれないが、それと逆の順番で、つまり、まず日本語の「おかず」に相当する *i'a* の定義を吟味し、その後日本語の「ごはん」に相当する *'ai* の定義を見ることにする。なぜこのような順番にするかという理由は後で説明する。以下が *i'a* の定義のうち副食に関連する部分である。

<i>i'a</i>	Any food eaten as a relish with the staple (<i>poi</i> , taro, sweet potato, breadfruit), including meat, fish, vegetable, or even salt.
------------	---

タロイモ(taro)、サツマイモ(sweet potato)、パンの実(breadfruit)はハワイの代表的な主食の食材である、そしてポイ(*poi*)は主食の代表的な食べ方(調理法)である。それらの主食と共に食される食べ物という定義であるから、これはまさに副食、日本語では「おかず」、に対応する単語である。ただ、この英語による定義では *i'a* は付け合せ(relish)として説明されている。「付け合せ」とは肉や魚などメインのおかずに添えられる野菜などのことを指す言葉であり、日本語の「おかず」とはうまく対応しない。しかしながら、定義の後に続く *i'a* の例を見てもわかるように、ハワイ語の *i'a* は「付け合せ」とは言えない。野菜や塩だけなら「付け合せ」に近いと考えられるかもしれないが、肉や魚も *i'a* に含まれるのである。例えば、ハワイの豚料理の代表と言え、豚一頭の丸ごと蒸し焼きであるが、このような大御馳走を「付け合せ」だと言う人はいないであろう。メインのおかず(主菜)も、その付け合せも両方含めて *i'a* と分類されるのである。このように、辞書の定義を見ると、ハワイ語の *i'a* は日本語の「おかず」にととてもよく対応している単語だと言える。

次に主食の *'ai* について吟味する。以下が *'ai* の辞書での定義のうち主食に関連する部分である。

<i>'ai</i>	Food or food plant, especially vegetable food as distinguished from <i>i'a</i> , meat or fleshy food; often refers to <i>poi</i>
------------	--

このように、*'ai* の定義のなかで *i'a* に言及している部分がある。*i'a* の定義を吟味し、その後 *'ai* の定義を見ることにしたのはこのような理由からである。辞書の定義からおぼろげながら読み取ることができるように、*'ai* の意味は大きく二つの意味に分けて考える必要がある。それは、(i)食べ物一般を指す *'ai* (food) と、(ii)それよりも限定された意味を指す *'ai* (food plant 以下に定義される部分) である。(i)の *'ai* については主食・副食という区別をせず一般的に食べ物を指すということである。(ii)の *'ai* については、この辞書の定義に従えば、「おかず」(*i'a*)ではない植物性の食べ物ということになる。「植物性の食べ物」という定義は曖昧性を含んでおり、これだけだと、主食であるイモ類やパンの実の他に、「おかず」であるべき野菜(葉や茎を食用とするもの)も含まれてしまう。しかしながら、*'ai* がしばしばハワイの代表的な主食であるポイを指すという説明

からも推測されるように、ここで言う「植物性の食べ物」とは主食であるイモ類やパンの実のことを指し、野菜（葉や茎を食用とするもの）は含まれていないと考えられる。定義の中でも、‘ai は i‘a と区別されるものだとされているので、i‘a に含まれる野菜類は‘ai からは除外されるはずである。

上記の内容を整理すると以下のようなになる。

	最も基本的な意味	主食・副食の区分に関わる意味 (名詞)
‘ai	動詞「食べる」	(1) 食べ物一般
		(2) 主食：イモ類、パンの実、特にハワイの代表的な主食ポイ（蒸したタロイモ等をつぶしてペースト状にしたもの）
i‘a	名詞「魚」	主食と一緒に食べるおかず：肉、魚、野菜、塩

このように、日本語の主食の「ごはん」と副食の「おかず」という区分にハワイ語の‘ai (2) と i‘a のペアが対応していることがわかる。

次の節以降で、実際にハワイ語の‘ai と i‘a の区別と日本語の「ごはん」と「おかず」の区別とを対照していく。

2.2. 「ごはん」と‘ai

「ごはん」も‘ai もただ一種類の食べものを指すのではなく、ある種の食べ物の集合を表すことばである。ただし、その集合の中にその集合を代表する典型的な食べ物が一つ存在するという点でも共通である。日本語の「ごはん」は米や麦や粟などの穀類を炊いたものを指す言葉であるが、典型的には米を炊いたものを指す。一方、ハワイ語の‘ai もタロ芋等のイモ類及びパンの実などを表す言葉であるが、その中でも、典型的にはタロイモのポイ（芋などを蒸してつぶしペースト状にしたもの）のことを指す。

日本語の「ごはん」はしばしば、主食も副食も含めた食事全体を指すのに用いられることもある。例えば、「もうごはん食べた」という問いかけは、通常の場合、主食である「ごはん」だけ食べたのかという意味ではなく、「ごはん」も「おかず」も含めた食事全体を終えたのかという意味である。ハワイ語の‘ai も全く同様であり、下記の例の様に、主食と副食を包含した食事の要素全体を指すにも使われる。

- (1) ..., ‘a‘ohe o‘u ono aku i ka ‘ai;
ない 私の 食べたい 前置詞 冠詞 食べ物
「私は食べ物を食べたい気持ちはない。」

Fornander (1919:585)

ここでは、単にポイなどの主食を食べたくないということではなく、食欲が減退し、食べ物一般を食べたくないという意味で用いられている。

以上のように、日本語の「ごはん」とハワイ語の‘ai はたいへんよく対応する概念であることが示された。しかしながら、両者の間で一致しない特徴もいくつか存在する。

日本語の「ごはん」は通常は人間の食事だけを指す。食事をするのは人間だけではない。動物も食事をするのであるが、動物の食事を「ごはん」と呼ぶことは一般的ではない。所が、ハワイ語の‘ai は動物の食事を表すのにも使われる。もちろん主食・副食という区別は関係なく、その動物の食べるもの全体を指すのに使われるのである。

- (2) ‘O nā i‘a o ka moana kāna ‘ai, a me ka wai nō ho‘i o nā pua
前置詞 冠詞魚の 冠詞海 それの 食べ物 と 冠詞汁 も の 冠詞花
o ka uka.
の 冠詞丘

「その食べ物は海の魚、そして丘の花の汁も」 Ka Nupepa Kuokoa (1863.6.13)

(2)ではある鳥の食べ物について説明した文である。つまり、この鳥が常食とするものがとするのが海の魚と丘の花の汁だ、ということである。このように日本語の「ごはん」が人間の食事のみに用いられるのに対し、ハワイ語の‘ai は動物の食べ物に言及するときにも使われるという違いがある。

もう一つ相違点をあげる。日本語の「ごはん」は炊いた穀類、つまり既に調理済みでもう食べられる状態の食べ物を指している。調理する前の硬い精米を指して「ごはん」と言うことは一般的でない。麦や粟などでも同様である。ハワイ語の‘ai も典型的にはタロイモのポイ、つまり既に調理済みでもう食べられる状態のものを指す。しかしながら、次の例のように、ハワイ語の‘ai は調理する前の主食食材のことを指す場合もある。

- (3) ..., a kau iho la ka ‘ai ma luna o nā pōhaku...

そして置く 冠詞 主食食材 に 上の 冠詞 石

「そして主食食材を石の上に置く。」

Beckwith (1932:163)

(3)はハワイの地中焼き石オーブンの説明であり、生の食材を今から加熱調理するという段階の手順である。従って、ここでは‘ai は未調理の生の主食食材のことを指している。

このように、日本語の「ごはん」は専ら既に調理済みの食物を指すが、ハワイ語の‘ai は調理済みの食物の他に、未調理のまだ生の主食食材も指すことがあるという違いがある。

2.3. 「おかず」と i‘a

日本語の「おかず」もハワイ語の i‘a も同様に主食と一緒に食べる食べ物であり、それに含まれる食材も、魚、肉、野菜である。「おかず」と i‘a はとてもうまく対応する概念である。しかしながら、前節で日本語の「ごはん」とハワイ語の‘ai の違いの一つとして

挙げたことと全く同様のことが「おかず」と i'a にもあてはまる。日本語の「おかず」は通常既に調理済みで食べるばかりの食べ物を指す。生のおかず食材を「おかず」と呼ぶことはあまり一般的でない。刺身など生のままでおかずになるものもあるが、この場合も生の魚一匹を食卓に出すのではなく、包丁で切る等の調理作業を経ている。いずれにしても、日本語の「おかず」は既に食べられる状態であるものを指す言葉である。下記の例の様にハワイ語の i'a も既に調理済みの食べ物を指すのに用いられる。

- (4) E lawe 'oe i ka 'ai a me ka i'a a waho,
命令 もって行くあなたを冠詞 主食 と 冠詞 おかず まで 外
i laila 'oe e 'ai ai,...
そこで あなた 時制・相 食べる 指示詞
「主食とおかずを持って外に行って食べる」 Fornander (1916:81)

例文(4)中の i'a が生のおかず食材であれば、外へ出て行ってすぐそこで食べることは出来ない。調理場に行って調理しなければいけないことになる。従って、ここでの i'a は既に調理済みのおかずを指している。しかしながら、日本語の「おかず」とは違いハワイ語の i'a は明らかに生の未調理のおかず食材を指すこともある。

- (5) ...e kālūa 'ia ka 'ai me ka i'a pū
時制・相 蒸し焼きにする 受身 冠詞 主食 と 冠詞 おかず 共に
ma ua umu la.
で その ウム 指示詞
「主食とおかずと一緒にそのウムで蒸し焼きにされる。」 Malo(1987:136)

ウムとはハワイ伝統料理法で地中焼石オーブンのことである。ウムに入れて蒸し焼きにするのは当然生の未調理の食材である。従って、例文(5)中の i'a は生の未調理食材を指している。このようにハワイ語の'ai は「おかず」を意味する場合と「おかず食材」を表す場合の二通りあるという点で、日本語の「おかず」とは異なる。

もう一つの違いは、日本語の「おかず」は専ら「ごはん」と一緒に食べる副食のことを指す単語であるのに対し、ハワイ語の i'a は「おかず」という意味で使われる他に「魚」という意味でも用いられるという点である。前にも述べたように、ハワイ語の i'a の最も頻繁に使われる意味は「おかず」ではなく「魚」の方なのである。特に、主食である'ai との対比なしで単独で i'a のみが登場する場合には、次の例の様に、「魚」という意味で用いられているのが大多数である。

- (6) 'O ka i'a kāna 'ai, a me nā mea i pa'a iā ia ma kahakai.
前置詞冠詞 魚 そのの 食物 と 冠詞 もの 完了 捉まった それに で 海岸

「その食べ物は魚と海岸で捉まえたものである。」

Mookini (1985:95)

例文(6)はシロクマの食べ物の説明である。シロクマの主たる食べ物は魚であるので、この i'a は「魚」と限定して解釈するのが適当と思われる。このように、i'a を「魚」と解釈すべきか、肉も含めた「おかず」と解釈すべきかは文脈によって判断されるものである。しかしながら、「魚」も「おかず」も同じく食べ物であるので、非常に類似した文脈で登場する。従って、次の例の様に、判断が難しい場合も多い。

(7) Lāwalu, 'o ka wahī 'ana ia i ka i'a hou i loko o

料理法の名前 前置詞 冠詞 包む こと それを 冠詞 魚 新鮮な に 中 の

ka lau'i, a

冠詞 ティー(植物名) そして

「Lāwalu、それはティーの葉の中に新鮮な魚を包み、そして...」 Beckwith (1932:161)

これは lāwalu という調理法の説明の一部である。'ai と対比されるのではなく、i'a が単独で登場している。訳者は i'a を「魚」と解釈している。訳者がどのような理由でここでの i'a を「魚」と解釈したのか明示されていないが、Brugess (1996:51) によれば lāwalu の調理法には特にある種の魚が好まれるということであり²、その意味では、lāwalu は典型的には魚の調理法であるということかもしれない。しかしながら、lāwalu は魚だけでなく肉にも適用される調理法である。従って、魚以外の肉について言及しているという可能性も否定できないはずである。この引用箇所はハワイの色々な伝統調理法の説明の章であり、漁や海辺の生活に限定した話ではないので、i'a を「魚」と限定する明確な根拠はないと思われる。このように、ハワイ語の i'a に関しては肉なども含めた「おかず」という意味なのか、「魚」という意味なのか判然としない場合が多々あるという点で、日本語の「おかず」とは異なっている。

2.4. 主食と副食の地位

主食の「ごはん」と副食の「おかず」は対立する概念なので、二つ並んで対比する形で登場することがとても多い。その際には、日本語では、例えば、「ごはんとおかずをバランスよく食べましょう」のように、「ごはん」、「おかず」という順番で並べられるのが普通である。「おかずとごはん」という順番はあまり耳にしない。では、ハワイ語はどうか。ハワイ語でも 'ai と i'a は二つ並んで対比される形で登場することが多い。その場合に、日本語と同様、並べる順番は決まっている。

(8) ua pau ka 'ai a me ka i'a, ka wai,...

完了 尽きる 冠詞 主食 と 冠詞 副食 冠詞 水

「主食も副食も水も無くなった」

Fornander (1916:49)

このように、ハワイ語では‘ai、i‘a という順番で並べられる。逆の並べ方をした例は発見できなかった。日本語でもハワイ語でも主食、副食という順番で並ぶのである。

「主食」、「副食」という言葉には、それ自体に「主」対「副」という意味が既に含まれていて、自ずと並べる順番が決まるのは不思議ではないが、日本語の「ごはん」にもハワイ語の‘ai にも「主たるもの」という意味は含まれていない。同様に、日本語の「おかず」にもハワイ語の i‘a にも「副えもの」のような意味は含まれていない。それにもかかわらず、一貫して、「ごはん」或いは‘ai が「おかず」或いは i‘a よりも前に並べられるということは、「ごはん」と‘ai は主たる食べ物であり、「おかず」と i‘a はそれと一緒に食べる付随的な食べ物だという意識を我々が持っているということの反映していると考えられる。つまり、日本語における「ごはん」とハワイ語における‘ai が食事の中心に位置しているということである。

ハワイ語では‘ai が食事の中心であり、i‘a は脇役的な地位にあるとして認識されていることは、以下の諺がよく表している。

(9) O ka ‘ai no ka ‘ai, o ka ‘i‘o kanaka ka i‘a.

「ごはんはポイ、おかずは人間の肉」

Pukui (1983:261)

この諺は「主食であるポイはあるのだが、それと一緒に食べるおかずが何もない」という意味の諺である。人間の肉がおかずというのは人食いの話ではなく、ポイと一緒にしゃぶる指のことをおかずにたとえている。おかずがなければ指をしゃぶってでも主食であるポイを食べるということ、これは、主食であるポイを食べると言うことが何よりも重要であるということを示している。

2.2.節において、「ごはん」や‘ai が主食と副食を包含した食事全体を指すのにも使われることを述べた。逆に「おかず」や i‘a を食事全体を示すのに用いるような例は見当たらない。このことも、「ごはん」や‘ai が食事の中心的なのだという意識を我々が持っているということの反映だと思われる。

3. 考察

3.1. 日本とハワイの食文化の類似性

以上、細かな点で違いはあったが、日本でもハワイでも主食と副食の区分が言語上明確になされていることが大きな共通点として指摘できる。あくまでも、主食である「ごはん」や‘ai が食事の中心であり、しばしば、それらの単語がおかずも含めた食事前提を指すのにも使われるという点でも同様であった。

一方、主食と一緒に食べる副食物については、日本でもハワイでも魚や肉や野菜などいろいろな種類があるにもかかわらず、それらを包括するような範疇が存在し、それぞれ、日本語では「おかず」、ハワイ語では i‘a のように一まとめにして呼ばれていることが大きな共通点であった。

3.2. ハワイ語の i'a の本質的な意味

ハワイ語の単語 i'a の最も頻繁に見られる用法は「魚」という意味の用法であるということは既に述べた通りである。この節では、i'a という単語の持つ、「魚」と魚以外の肉や野菜も含む「おかず」という二つの意味の関係について考察し、i'a の本質的な意味は何であると考えられるのか論じる。

2.3節において、ハワイ語の i'a が「魚」を指すのか、肉などを含めた「おかず」なのかという判断が難しい場合があるということを示したが、そもそも「魚」なのか肉なども含む「おかず」なのかという区別自体にあまり意味がないような事例が存在する。ハワイ語にはいろいろななぞなぞがあるが、その中には、次の例の様に、i'a という単語がキーワードとして登場するものが少なくない。

(10) Ku'u wahi i'a 'ili 'ole

私の 小さな 魚 皮 なし

「私の小さな皮なし魚³」

Judd (1988:67)

このなぞなぞの答えは、huli (タロイモの球根より上に生えている芽の部分) である。(10)の中の i'a は「魚」そのものではないが、「魚」と同様におかずとして食べられるもの(この場合は野菜)を指している。しかも、Judd(1988:67)によれば、huli という部分はしばしば魚の代わりに食べられるもの、つまり魚の代替物だということである。このなぞなぞは「魚」にひっかけて魚ではないものを答えさせるものなので、「魚」と訳す方がむしろなぞなぞらしいのかもしれないが、答えは「魚」ではなく野菜なのである。

ハワイ語にはなぞなぞと同様に多くの諺もある。諺の中にも、次の例の様に、「魚」をキーワードとするものが多く存在する。

(11) Ka i'a i nui ai 'o Kamehameha.

冠詞 魚 時制・相 大きい 指示詞 前置詞 Kamehameha

「カメハメハを大きく育てた魚」

Pukui (1983:146)

(11)は「タロイモの葉」の喩えとして用いられる諺である。これはある故事に基づいている。マウイ島の王ケカウリケの王子がまだ幼いころの話である。ある時、ケカウリケ王の王子の従者が留守にすることになり、代わってその従者の若い息子達が王子の世話をすることになった。若い息子たちはタロイモの葉を柔らかく飲み込みやすく調理して王の息子に食べさせた。そこへ思いがけなくもケカウリケ王がやって来て、自分の息子が魚ではなくタロイモの葉を食べさせられているのを見て腹を立てた。それがケカウリケ王だとは知らず、その息子たちは「このお子はとても尊いお子だ、骨がのどに刺さったらいけないのでタロイモの葉を食べさせているのだ」と説明した。それを聞いて王は満足した。このように、i'a が「魚」そのものではなく、「魚に代替するおかず食材」であ

る野菜に言及しているという点で、なぞなぞ(10)と類似している。やはり、ここでの i'a も「魚」の代替物としての野菜という意味合いがあることから、訳の上では「魚」が適切かもしれないが、実際には「魚」ではない「おかず」を示している。なぞなぞや諺の中では、タロイモの芽以外にも、ククイの実や玉葱等、魚以外のいろいろなおかず食材が i'a として言及されている。⁴いずれも「魚」という意味にかけたり、なぞらえたりされて登場している。

i'a という単語は歴史的にもポリネシア祖語から継承される単語であり、他のポリネシア諸語においては「魚」という意味の単語である。したがって、「魚」という意味の方が元々の意味であると考えられる。そこで次のような仮説が立てられる。

(12) i'a の本質的な意味に関する仮説

i'a の意味はまず「魚」であり、魚はおかずの代表であるので拡張的に「魚に匹敵するもの」、「魚の代わりにおかずになるもの」を示す意味を持つに至った。

この仮説は次のような例でも裏付けられる。

- (13) 'O ka 'ai, 'o ka pua'a, ka moa, ka palahū, ka i'a maoli,
前置詞 冠詞 主食 前置詞 冠詞 豚 冠詞 鶏 冠詞 七面鳥 冠詞 魚 真の
a kū aku i uka,...
and もってあがる に 丘
「主食、豚、鶏、七面鳥、魚を持ってあがる」 Fornander (1919:633)

(13)中の'ai は主食のことを指し、それに続く「豚、鶏、七面鳥、真の魚」はおかずの内容を説明していると考えられる。前に魚以外の色々な肉が並んでいることから推測されるように、ここでは、i'a maoli「真の魚」は肉ではなく「魚」を指している。なぜ、i'a「魚」の前に maoli「真の」が付されているのであろうか。魚以外も含めた「おかず」という意味の i'a と明確に区別するために maoli「真の」をつけたと考えられる。「魚」が「真の魚」であるということは、豚や鶏や鶏はいわば「偽の魚」つまり「魚の代替物」ということになる。このようなことから、i'a が「魚」以外のおかず食物を指す際には、それが「魚の代替物」であるというような意味合いがあるものと考えられる。

ハワイ語の i'a は「魚」という意味で用いられる場合でも「おかず」という意味で用いられる場合でも、いずれにしても「魚」という意味を含んでいる。狭い意味での i'a は真の「魚」のみを指し、広い意味での i'a には真の「魚」はもちろんであるが、魚と同様に「おかず」として食される肉類、魚の代わりとして食べられるタロイモの芽など魚の代替品も含めた、「魚」及び「魚相当のもの」を示すと考えられる。

3.3. 「酒」と「肴」

日本語には、「ごはん」と「おかず」の関係に良く似た関係を持つ一対の単語として「酒」

と「肴」というものがある。この場合には「酒」が中心であり、「肴」は酒と一緒に食べる食べ物である。これは、食事において「ごはん」が中心で、「おかず」はごはんと一緒に食べるものという関係と対応する。驚いたことにこれとうまく対応するペアがハワイ語にも存在する。

ハワイには飲酒の習慣は無かった、つまり、酒は存在しなかったのである。そのかわり、カヴァ(‘awa)という胡椒科の植物の根の絞り汁を飲む習慣がある。このカヴァが酒に代わる嗜好品なのである。日本で「酒」を飲む時に「肴」を食べるのと同じように、ハワイでもカヴァを飲む際には、そのカヴァと一緒に魚や肉などを食べるのである。ハワイ語でこのようにカヴァと一緒に食べる魚や肉などを pūpū と呼ぶ。ハワイでも、やはり‘awa「カヴァ」が中心であり、pūpū はあくまでもそのカヴァを飲むための「肴」という脇役的な位置づけである。このように、ハワイにおける‘awa「カヴァ」と pūpū の関係は、日本における「酒」と「肴」の関係とうまく対応している。

白人が酒を持ち込み、ハワイ人もすっかりお酒が大好きになってしまった現在、伝統的にはカヴァの「肴」であった pūpū という単語の意味は拡張され、文字通り酒の「肴」という意味で使われるようになった。今日、ハワイのバーには pūpū menu というものがあるが、これは酒（ハワイではビールがポピュラーである）の肴となるような料理のメニューである。ちなみに、ハワイ語で「おかず」にあたる i‘a の最も代表的な意味は「魚」であったが、この pūpū という単語にも「肴」という意味以外にいろいろな用法がある、その中で最も代表的な意味は「貝」である。「おかず」が「魚」で、「肴」は「貝」であるということから、魚介類がハワイでいかに重要かつ身近な食材であったかが窺える。

歴史的にも地理的にもずいぶ隔たった日本語とハワイ語には思いがけない類似点が二つも存在することを述べたが、この背景には、主食の内容が比較的固定しているという点以外に、魚が重要な副食物であるという共通点も影響しているかもしれない。

謝辞

* 本稿は文部省科研費奨励研究(A)「ハワイの記述的研究—文献データに基づくハワイ語辞書の編纂—」(課題番号 09710358)の研究成果の一部を拡張したものであり、分析データも同科研費によって構築したデータベースの増補版を活用した。ドイツ語の語彙に関しては丹菊矯二氏からコメントをいただいた、この場を借りて謝意を表したい。また、コメントを下さった二名の査読者の方にも感謝の意を表したい。

注

¹ 主食と副食の定義については辞書によって微妙に意味合いが異なる定義が見られるが、本稿では三省堂新明解国語辞典に従って、主食は主にカロリー源となる炭水化物からなる食物、副食は主食に添えて食べるものとする。

² こねたパン生地を lāwalu で調理することもあるとされているが、小麦粉は伝統的な食べ物ではなく、近代に欧米から持ち込まれたものである。

³ 「私の小さな～」という言い方はハワイのなぞなぞによく登場する表現である。日本語の「～ってなあ

に」に相当する言い方である。

⁴ 玉ねぎは近代にハワイに持ち込まれ定着した野菜であり、玉葱をおかずにポイを食べるという光景は現在でも良く見かけるものである。

参考文献

- Beckwith, Martha W. 1932. *Kepekino's Tradion of Hawaii*. Honolulu:Bishop Museum.
- Burgess, Puanani, ed. 1996. *A Manual for Doing Things Hawaiian Style*. Wai‘anae:Ka‘ala Farm.
- Fornander, Abraham. 1916. *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. IV, part I.
Honolulu:Bishop Museum Press
- Fornander, Abraham. 1919. *Fornander Collection of Hawaiian Antiquities and Folk-Lore*, vol. V, part III.
Honolulu:Bishop Museum Press
- Judd, Henry, P. 1988. *Hawaiian Proverbs and Riddles*. Millwood: Krauss Reprint.
- Ka Nupepa Kuokoa*. Honolulu. (Hawaiian Newspaper)
- Malo, Davida. 1987. *Ka Mo‘olelo Hawaii*. Honolulu:The Folk Press.
- Mitchell, Donald. D. 1992. *Resource Units in Hawaiian Culture*, revised edition. Honolulu:The Kamehameha Schools Press.
- Mookini, Esther T. 1985. *O na Holoholona Wawae Eha o ka Lama Hawaii*. Honolulu:Bamboo Ridge Press.
- Pukui, Mary K. 1983. *‘Ōlelo No‘eau*. Honolulu:Bishop Museum Press.
- Pukui, Mary Kawena and Samuel H. Elbert. 1986. *Hawaiian Dictionaty*, revised and enlarged version.
Honolulu:University of Hawaii Press.
- 金田一京助他編. 1979. *新明解国語辞典* 第二版. 東京:三省堂
- 国松孝二他編. 1976. *コンサイス和独辞典* 第二版. 東京:三省堂
- 研究社. 1995. *新英和・和英中辞典* CD-ROM 版.

執筆者紹介

所属：室蘭工業大学共通講座・言語科学講座

Email：shionoya@mmm.muroran-it.ac.jp